

知的財産法の真のパイオニア：

阿部隆徳のエンパワーメント・ジャーニー

複雑に変化するリーガル業界において、阿部隆徳ほど傑出した人物はいない。知的財産法におけるベテラン実務家であり、ABE & PARTNERS（阿部国際総合法律事務所）のマネージングパートナーでもある阿部弁護士の歩みは、その絶え間ない努力、先見的なリーダーシップ、そして絶対に前向きに変化していくという決意を反映している。

先見的なリーダーシップ：専門知識と専門性

阿部弁護士は現在、ABE & PARTNERS を率い、戦略的プランニング、クライアントとの関係構築、チームの結束を重視しながら、成長とイノベーションに注力している。また、大阪大学大学院医学系研究科の招聘教授として、次世代のリーガルプロフェッショナルに専門知識を継承している。学術的知識および実務経験を融合させた独自の手法により、知的財産法の複雑な問題を巧みに解決する能力を持ち、クライアントに有益な見識を提示している。ABE & PARTNERS は、阿部弁護士のダイナミックなリーダーシップのもと、特許訴訟および知的財産法における卓越したスタンダードを確立し続けている。

ABE & PARTNERS：概要

2003 年に設立された ABE & PARTNERS は、阿部弁護士のビジョンを体現する法律事務所であり、知的財産法および国際取引に特に重点を置き、国際法務および企業法務を幅広く取り扱っている。これまでに、製薬、化学、電子機器、機械など様々な分野の特許訴訟を取り扱ってきた。また、バイオテクノロジーや半導体などの先端技術を含む分野の特許訴訟を、多くの場合国際争訟として、取り扱ってきた。

ABE & PARTNERS は、日本初の抗体特許侵害訴訟におけるバクسالタ社の代理人を務めるなど、注目すべき事件を手がけてきた。この画期的な事件は、日本の製薬特許訴訟の先例となり、複雑なバイオ医薬品関連紛争を扱う同所の専門性を実証した。この事件では、高度な法的・技術的論争が繰り広げられ、特許法と最先端の科学技術の両方に対する深い理解が求められた。

また、日本の製薬業界 M&A において史上最大の案件である武田薬品工業によるシャイアーの 620 億ドルでの買収においても、シャイアーに重要な知的財産デューデリジェンス・サー

ビスを提供した。その詳細な分析により、シャイアーは武田薬品工業が買収した知的財産資産を既存のポートフォリオに円滑に統合することができ、国際的な知的財産デューデリジェンスにおける ABE & PARTNERS の専門性の高さを実証した。

2024 年、ABE & PARTNERS は 4 件の勝訴決定を獲得し、敗訴はゼロという豊作の年となった。特筆すべきは、様々な製薬巨大企業の代理人として勝利を収めたことである。特に、日本の製薬会社の代理人としては、ジカウイルスワクチンに関連するインドの製薬会社の特許請求項をすべて無効とする勝訴審決を獲得した。また、米国の製薬会社を代理し、特許庁の取消理由通知を覆し、特許を請求項の訂正なしに維持した。さらに、バイエル・ヘルスケアとリジェネロン・ファーマシューティカルズの代理人としてサムスン バイオエピスと争った極めて重要な訴訟では、サムスン バイオエピスの不正競争防止法違反の主張を効果的に退けた。これらの訴訟は、注目されているバイオ医薬品であるアイリニアをめぐる、リジェネロン／バイエルとバイオシミラー企業との間の広範なグローバル争訟の一部をなしている。

法律、特に知的財産の道を志したきっかけについて尋ねると、阿部弁護士は、「他の法律分野がすでに徹底的に探求されてきた中で、知的財産法の分野は新しい領域を切り開く白紙のキャンパスのように思えた」と答えた。

課題を克服する

事務所を設立し、法律分野で成功することは難しい。阿部弁護士は、とりわけ特許訴訟というニッチな分野に参入する際に、さまざまな困難に直面した。最大の困難のひとつは、類似した事案や確立した先例がほとんどないことが主な原因で、裁判官の判断に大きなばらつきがあることであった。

早期経験の意義：複雑なケースへの対処法

阿部弁護士は早いうちから訴訟弁護士としての訓練を受けた。相手の考えていることや次の行動を予測し、裁判官の考えを読むことを学んだ。この訓練から、チェスをするのと同じように、法的戦略において正しい手を打つ方法を教わった。

ABE&PARTNERS の進展と重要な出来事

阿部弁護士は、米国とドイツで数多くの特許訴訟を担当してきた。米国では、2 件の陪審裁判を含む地方裁判所での様々な特許事件や、連邦巡回区控訴裁判所および最高裁判所での事件に携わった。ドイツでは、デュッセルドルフ、カールスルーエ、ミュンヘンで事件を担

当した。これらの経験を通して、阿部弁護士は欧米のクライアントの思考プロセスを深く理解し、欧米の一流弁護士が実務をおこなう様子を観察してきた。この見識は、欧米企業の代理人として日本で同様の訴訟を手がける際に大いに役立っている。

高難度の案件と学術への貢献の両立

複数の分野での仕事に携わることで相乗効果が生まれる。訴訟弁護士として最先端の案件を手がける一方、阿部弁護士は知的財産法の分野の進展にも努めている。大阪大学大学院医学系研究科の招聘教授として、医師や看護師、医学生に知的財産法や医事法を教えることに使命感を感じている。

日本の知的財産法における重大な課題

製薬特許訴訟では、先発医薬品メーカーと後発医薬品メーカーの間で紛争が続いている。さらに、特に FRAND 訴訟では、標準必須特許権者と実施者との間で激しい紛争が起きている。これらの事件を規制するルールは明確でないことが多い。

阿部弁護士の視点：今後の製薬特許の展望

阿部弁護士は、特許保護と医薬品アクセスとのバランスに関する紛争はさらに増えるだろうと考えている。医薬品の差止め命令を認めるかどうかを判断するような事件が増えることが予想される。

製薬特許訴訟の最新動向

抗体医薬などのバイオ医薬品の台頭により、先発医薬品メーカーの特許訴訟が増加している。後発医薬品やバイオシミラーを推進する国の政策が、特許訴訟にどのような影響を与えるのか注目される。

若手弁護士へのアドバイス

製薬業界における紛争は法的にも技術的にも魅力的な分野であり、キャリアを捧げるに値する。若手弁護士には、ノーベル賞受賞者など一流の科学者と協力し、この分野の未来を形作る革新的な法的議論を展開するチャンスがある。

ABE & PARTNERS の将来展望

ABE & PARTNERS は、今後 5 年から 1 0 年の間に新たな高みに到達するだろう。最先端の事件や高難度の案件を成功裏に解決し、新たな法的枠組みの形成においても重要な役割を果たすだろうと阿部弁護士は確信している。